心理学専攻

心理学専攻の特色

本専攻は、臨床心理学コースと心理行動科学コースに分かれます。両コースとも心理学の専門的かつ先端的な知識・技能を学ぶとともに、関連する心理学の隣接分野を有機的かつ体系的に学習します。

〇臨床心理学コース

臨床心理学コースでは、現代社会が抱える問題に対して、臨床心理学的視点から問題の解決を支援できる力を養成します。将来、心理専門職として、医療、福祉、教育、司法、産業等の専門機関で活動したい方、臨床心理学を深く学びたい方を求めています。公認心理師及び臨床心理士の受験資格取得を目指し、専門科目の知識や実践力を深めていきます。

〇心理行動科学コース

心理行動科学コースでは、心理学の知識を深めるとともに認知、学習、発達、社会心理学など、心理学の様々な方法を学び現実の問題に実践的にアプローチしていきます。修了後は、公務員の心理職、法務教官、保護観察官などに就いたり、一般企業や民間団体の専門職を目指したり、大学院博士課程に進学したりします。

ディプロマ・ポリシー

1　総合科目

心理学の体系的知識と研究倫理を修得し、自ら設定した課題に対して論理的・計画的に探究し、修士論文としてまとめる能力を身につける

2　専門科目（基礎系）

心理学の主要領域に関する理論と方法論を理解し、心を科学的に捉えるための分析的思考力と研究遂行能力を身にける。

3　専門科目（臨床系）

心理学の知見を現実の課題解決に応用し、対人支援や社会的実践において倫理的かつ柔軟に対応する実践的能力を身につける。

カリキュラム・ポリシー

教育課程を「総合科目」と、基礎心理学系、臨床心理学系の２つの分野からなる「専門科目」から構成する。

1．「総合科目」には本専攻の教育目標を達成するのに必要不可欠な知識及び技能の修得を目指した必修科目を配置し、最終的に修士論文の作成を行う。

2．「専門科目」は、心理に関する基礎を学ぶ基礎心理学分野と、それを実践応用する方法を習得臨床心理学分野の２つに分ける。

〔カリキュラムの特徴〕

両コースとも修士（心理学）の学位の取得が可能です。

臨床心理学コースでは、公認心理師及び臨床心理士の受験資格取得のため、講義、演習、そして実習の形式で学んでいきます。①充分な事前指導を踏まえて１年次から学外実習を実施し、実践力を養います。②講義と実習が有機的に連関することで、より深い学びが可能になるよう工夫されています。また、教員による丁寧な指導を通じて、実践力のみならず、臨床心理学の発展に寄与する研究能力の育成にも力を入れています。

心理行動科学コースでは、データの統計処理に基づいて論理的に思考し、考察する能力を培う科目群を整備し、脳科学から集団心理まで幅広く心理学の知識を深めることができる科目を配置しています。

カリキュラム表（心理学専攻）

心理学専攻（修士課程）臨床心理学コース

授業科目名	履修学年と単位数		公認心理師	臨床心理士	研究科到達目標			専攻到達目標		
	1年次	2年次			1	2	3	1	2	3
臨床心理学特論	④			○		○			○	
臨床心理面接特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践）	②		○	○		○			○	
臨床心理面接特論Ⅱ	②			○		○			○	
臨床心理査定演習Ⅰ（心理的アセスメントに関する理論と実践）	②		○	○		○			○	
臨床心理査定演習Ⅱ	②			○		○			○	
臨床心理基礎実習	②			○		○			○	
臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習Ⅲ）		①	○	○		○			○	
臨床心理実習Ⅱ		①		○		○			○	
心理学研究法特論A	2			A	○			○		
臨床心理学研究法特論	2			A	○	○			○	
認知心理学特論	2			B	○			○		
発達心理学特論	2			B	○			○		
社会心理学特論	2			C	○			○		
心理療法特論	2			E		○			○	
投影法特論	2			E		○			○	
家族心理学特論（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）	2		○	C		○			○	
犯罪心理学特論（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開）	2		○	C		○			○	
神経生理学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）	2		○	D		○			○	
障害者（児）心理学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開）	2		○	D		○			○	
教育分野に関する理論と支援の展開	2		○			○			○	
産業・労働分野に関する理論と支援の展開	2		○			○			○	
心の健康教育に関する理論と実践	2		○			○			○	
心理実践実習Ⅰ	1		○			○			○	
心理実践実習Ⅱ	4		○			○			○	
心理実践実習Ⅳ		4	○			○			○	
特別研究Ⅰ	④				○		○			○
特別研究Ⅱ		④			○		○			○

＊○：必修　ＡＢＣＤＥ：選択必修（各領域から２単位以上）

心理学専攻（修士課程）心理行動科学コース

授業科目名	履修学年と単位数		修得要件	研究科到達目標			専攻到達目標		
	1年次	2年次		1	2	3	1	2	3
心理学研究法特論A	2		12単位以上	○			○		
心理学研究法特論B	2			○			○		
認知心理学特論	2			○			○		
学習心理学特論	2			○			○		
神経生理学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）	2			○			○		
発達心理学特論	2			○			○		
社会心理学特論	2			○			○		
臨床心理学研究法特論	2		2単位以上	○	○			○	
家族心理学特論（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）	2				○			○	
犯罪心理学特論（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開）	2				○			○	
障害者（児）心理学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開）	2				○			○	
教育分野に関する理論と支援の展開	2				○			○	
産業・労働分野に関する理論と支援の展開	2				○			○	
心の健康教育に関する理論と実践	2				○			○	
心理学総合演習Ⅰ	④			○		○			○
心理学総合演習Ⅱ		④		○		○			○
特別研究Ⅰ	④			○		○			○
特別研究Ⅱ		④		○		○			○

資格課程（心理学専攻）

○公認心理師課程（心理学専攻）

◇公認心理師とは

公認心理師とは、公認心理師登録簿への登録を受け、公認心理師の名称を用いて、保健医療、福祉、教育その他の分野において、心理学に関する専門的知識及び技術をもって、次に掲げる行為を行うことを業とする者をいいます。

⑴ 心理に関する支援を要する者の心理状態の観察、その結果の分析
⑵ 心理に関する支援を要する者に対する、その心理に関する相談及び助言、指導その他の援助
⑶ 心理に関する支援を要する者の関係者に対する相談及び助言、指導その他の援助
⑷ 心の健康に関する知識の普及を図るための教育及び情報の提供

◇公認心理師受験資格

公認心理師になるためには公認心理師試験に合格しなければなりません。公認心理師試験の受験資格は、以下の者に付与されます。

⑴ 大学において公認心理師となるために必要な科目として省令で定めるものを修め、かつ、大学院において公認心理師となるために必要な科目として省令で定めるものを修めてその課程を修了した者等
⑵ 大学において公認心理師となるために必要な科目として省令で定めるものを修め、卒業後一定期間の実務経験を積んだ者等
⑶ 文部科学大臣及び厚生労働大臣が（1）及び（2）に掲げる者と同等以上の知識及び技能を有すると認めた者

◇公認心理師課程の履修

公認心理師となるために必要な科目を修得できるよう公認心理師課程を置いています。公認心理師の受験資格を取得しようとする者は、カリキュラム表に記載のある科目のうち、公認心理師の欄に指定（○）のある科目をすべて修得しなければいけません。

○臨床心理士課程（心理学専攻）

◇臨床心理士とは

臨床心理士は、臨床心理学に基づいた知識と技術で援助する専門職で、（財）日本臨床心理士資格認定協会の認定をうけている心理専門職です。

◇臨床心理士受験資格

臨床心理士の資格は、心理学を専攻する指定された大学院修士課程を修了後、資格審査に合格した場合、財団法人日本臨床心理士資格認定協会が認定する資格です。本大学院は第一種指定校なので、大学院修了後に受験資格が得られます。

◇臨床心理士課程の履修

臨床心理士となるために必要な科目を修得できるよう臨床心理士課程を置いています。臨床心理士の資格を取得しようとする者は、カリキュラム表に記載のある科目のうち、臨床心理士の欄に指定（○）のある科目の全てと、ＡＢＣＤＥと領域の記載がある科目のそれぞれの領域から２単位以上を修得しなければいけません。

※公認心理士及び臨床心理士については、学外実習が義務づけられています。実習費等については、ガイダンス等で指示します。

○資格課程費の納入について

実習や資格手続きに必要な費用です。納入時期と金額はガイダンス等でお知らせします。